

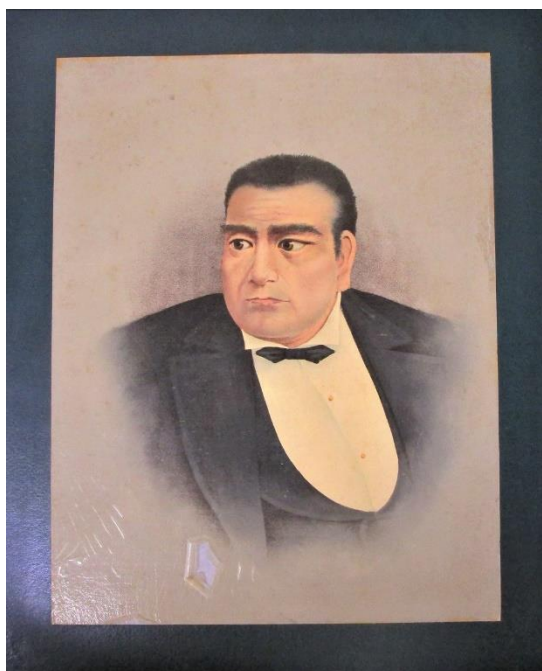
勝海舟基金

あたたかいご支援をありがとうございます

平成30年8月から募集し、令和3年度末までに累計で、1,009件 57,812,964円のご寄附を賜っております。ご寄附の一部を、次のとおり活用しましたので、ご報告申し上げます。

令和3年度 活用報告

■資料の収集 勝海舟ゆかりの資料を163点購入しました。ここでは、そのうちの1点をご紹介します。



あずきざわりょういち
小豆澤亮一作「西郷隆盛肖像」

明治時代の写真家・小豆澤亮一が、複写した西郷隆盛の絵に油絵具で着彩を施した作品です。その技法は「写真油絵」といわれています。絵が焼き付けてある印画紙(写真用紙)の裏側の紙を、表面の絵がうっすら見えるまで剥がし、そこに油絵具で着彩しています。師・横山松三郎が考案したこの技術を受け継いだ小豆澤は、写真油絵の特許を取得しました。

この資料のもととなった絵の作者は不明ですが、西郷と交流のあった人の記憶や西郷実弟・従道の容貌等をもとにして描かれたと考えられます。

海舟の手元に渡り、近年に至るまで大切に保存されてきた資料であることから、収集に至りました。

なお、写真油絵の被膜には感光液として卵白等が使用されている可能性があり、その一部に経年劣化による剥離が見られることから、成分の調査等を行い、慎重に修復を検討しています。

■資料の修復 31点の資料を修復しました。そのうちの1点をご紹介します。

海舟の印章ケース

海舟は、自身が手がけた書画に印を押すため、数多くの印章をコレクションしていました。それらが納められていたのが、右の印章ケースです。

革製の外側は、劣化により表面が全体的に硬化し、剥離して粉状になっている部分も見受けられました。また、持ち手部分が本体から外れかかっています。同様に、内側の損傷も激しく、張られていた洋柄の更紗木綿の裂が剥離していたり、ケースの形状を保つための芯材である木板が崩れてしまっていたりしました。このままでは保存・公開が難しいと判断したため、専門業者に修復を依頼しました。

- ①刷毛や修復用スポンジで表面と内側の汚れを除去。
- ②内側の芯材の木板を整え、裂を張り直す。
- ③粉状に剥離していた持ち手部分を、網目状の極細繊維(ナイロンチュール)で覆い保護。
- ④外れていた持ち手を、リボンと革を使い本体に留め付ける。
- ⑤本体に触れずに保存や取り出し等ができるよう、収納トレイを作製。

といった処置が施され、劣化の進行を少しでも抑えられる状態が整いました。なお、中の墨汚れは海舟がケースを使用した当時の痕跡として留めています。



(学芸員 稲垣)

この他の収集、修復資料を展覧する特別展を9月2日(金)から開催しています。

開館3周年記念特別展

収蔵資料展 守り伝える海舟の“歴史遺産”

令和4年9月7日、当館は開館3周年を迎えました。これまで収集・修復を行ってきた歴史資料全20点を、前・後期に分けて展示します。普段はご覧いただけない修復過程の様子もご紹介しますので、是非お越しく下さい。

<会期> 前期:9月2日(金)~10月30日(日) 後期:11月3日(木・祝)~12月25日(日) ※ 詳しくは公式ホームページをご覧ください。

今後も海舟ゆかりの貴重な資料を守り伝えていくために、「勝海舟基金」は現在も募集中です。引き続き、ご支援ご協力のほど、心よりお願い申し上げます。

勝海舟基金の詳細は →→→

大田区立勝海舟記念館
電話 03(6425)7608

